

1. 今年の天候と生育概況

5月の天候は、比較的晴天日が続き安定した天候ではあったものの中旬以降の気温がやや低く推移したことから、分けつ本数がやや少ない状況でした。また、本年は藻の発生が多くみられ、藻の発生量の多い圃場では生育停滞も見受けられました。その後、気温の上昇とともに茎数が増加し現在では、茎数は平年並みとなり、草丈はやや長い状況となっています。

今後の生育については、品質や収量に影響を与える重要な生育ステージに入りますので、天候や生育状況に合わせて適正な管理に努めましょう。

2. 穂肥施肥基準

基肥に基肥一発タイプの肥料を使用した時は、穂肥は施用しない

＜移植基準日 みずかがみ・秋の詩・滋賀羽二重糯は4月29日植 コシヒカリ・日本晴は5月2日植 キヌヒカリは5月16日植を基準としています。＞

	品種名	出穂予測	葉色	幼穂長	穂肥時期	使用した基肥が	1回目の穂肥と施用量(kg/10a)	2回目の穂肥と施用量(kg/10a)	その他注意事項
1	みずかがみ 環境こだわり	7月22日 ～24日	4.0	1ミリ	6月27日～29日 出穂25日前	フレーバーペースト846 の時、	滋賀こだわりハーフコート306 36kg		
2	コシヒカリ 環境こだわり	7月26日 ～31日	3.5	10ミリ	7月8日～13日 出穂18日前	ハーフゆうき の時、 有機アグレット844 の時、	滋賀こだわりハーフコート306 36kg まかせな彩(穂肥) 18kg		
3	キヌヒカリ 環境こだわり	7月28日 ～8月1日	4.0	1ミリ	7月3日～7日 出穂25日前	ハーフゆうき の時、 有機アグレット844 の時、 フレーバーペースト846 の時、	滋賀こだわりハーフコート306 30kg まかせな彩(穂肥) 18kg 滋賀こだわりハーフコート306 36kg		
4	コシヒカリ	7月26日 ～31日	3.5	10ミリ	7月8日～13日 出穂18日前	まかせな彩(基肥) の時、 L ペースト588 の時、	まかせな彩(穂肥) 20kg 又は 化成肥料201 15kg	1回目から2週間後に 化成肥料201 10kg	倒伏の心配がある場合は、 ・ロミカ粒剤(出穂25～10日前、10aあたり2～3kg) ・ビビフル粉剤DL(出穂10～5日前、10aあたり3～4kg)
5	キヌヒカリ	7月28日 ～8月1日	4.0	1ミリ	7月3日～7日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、	まかせな彩(穂肥) 20kg 又は 化成肥料201 20kg	1回目から2週間後に 化成肥料201 10kg	
6	日本晴	8月7日 ～9日	4.0	1ミリ	7月13日～15日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、 L ペースト588 の時、	まかせな彩(穂肥) 30kg 1回目 化成肥料201 20kg	1回目から2週間後に 化成肥料201 10kg	
7	秋の詩	8月9日 ～12日	4.0	1ミリ	7月15日～18日 出穂25日前	まかせな彩(基肥) の時、 L ペースト588 の時、	まかせな彩(穂肥) 30kg 又は 化成肥料201 15kg	1回目から2週間後に 化成肥料201 10kg	
8	滋賀羽二重糯	8月15日 ～20日	3.5	10ミリ	7月28日～8月2日 出穂18日前	まかせな彩(基肥) の時、 L ペースト588 の時、	1回目化成肥料201 15kg/1回目から1週間後に化成肥料201 10kg 実肥(走り穂が出た時)に化成肥料201 10kg 出穂後から収穫までの期間に肥え切れすると稔実歩合の低下を招くため、実肥を施肥する。(やりすぎ注意)		倒伏の心配がある場合は、 ・ロミカ粒剤(出穂25～10日前、10aあたり2～3kg) ・ビビフル粉剤DL(出穂10～5日前、10aあたり3～4kg)

- ① 穂肥の施用は、必ず幼穂の長さを確認する。コシヒカリ・滋賀羽二重糯で10mm(出穂18日前)、みずかがみ・キヌヒカリ・秋の詩等で1mm(出穂25日前)を確認する。
- ② カラースケールにより葉色を確認する。コシヒカリ・滋賀羽二重糯で3.5、みずかがみ・キヌヒカリ・秋の詩等で4.0 葉色が極端に濃い場合は、1回目の穂肥を遅らせ減量する。
- ③ 尻水戸をしっかりと止めて水を張った状態で施用し、かけ流しはしない。
- ④ 過剰な施肥は、倒伏や病害を誘発するので、注意しましょう。(特に環境こだわり栽培については、化学窒素肥料の制限があるので、施肥量は厳守)

＜幼穂の見方＞

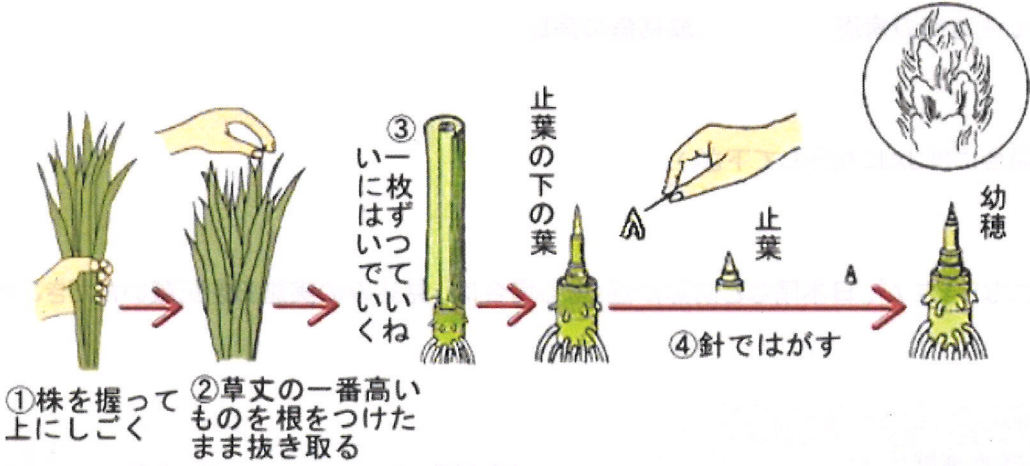


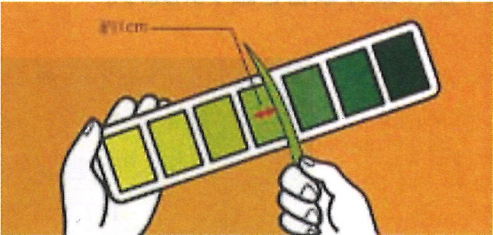
図 幼穂の観察の仕方

＜葉色カラースケールでの葉色の味方＞

葉色カラースケールの使用方法については、単葉測定法と群葉測定法の2種類があります

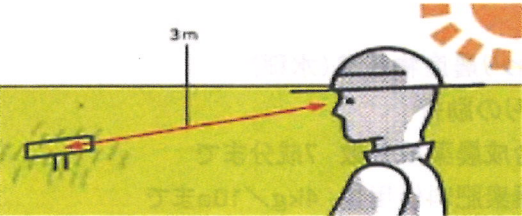
◎単葉測定法

- ① 完全展開葉の上から数えて2～3枚目の葉を選びます。
- ② 版から1cm位はなし葉の中央部の色と葉色版の色を合わせ測定する。
- ③ 圃場全体の平均を得るために数ヶ所測定を行い平均的な測定値で判断する。



◎群葉測定法

- ① 天気の良い午前中に太陽を背にして葉色カラースケールから3m程度離れて測定する。
- ② 圃場全体の平均を得るために数ヶ所測定を行い平均的な測定値で判断する。



4. 水管理(根を守る管理)

梅雨明け後は、稲作期間中で最も高温になる時期で、根の活力が低下しやすい状態になり水を張り続けると根痛みを起こします。また、出穂前後は、稲の葉からの蒸散量が最も多い時期となり水不足になると稲が衰弱し、幼穂や開花に影響を与えますので、今後の水管理については、十分注意しましょう。

- ①中干以降は、間断灌漑にし酸素と水の供給を交互に行いながら、根の発育を促し、活力を維持しながらうわ根をしっかりと張らしましょう。
- ②穂ばらみ期～開花期にかけては、水不足にならないように注意し、湛水を保ちこまめな入水に努め乾かし過ぎないようにします。
- ③開化期以降は、再度間断灌漑に努め、根の老化と下葉の枯れあがりを防ぎ登熟の向上に努めましょう。
- ④刈取前の落水は、できる限り辛抱し、登熟の向上と立毛胴割れ防止に努めましょう。



5. 病害虫防除(早期発見・早期防除) 記載の農薬は、令和2年6月25日現在のもを使用しています。使用の際はラベルの内容を確認して下さい。

水稻病害虫共同防除基準

防除時期	対象品種	環境こだわりみずかがみ	コシヒカリ	日本晴	滋賀羽二重糯
			キヌヒカリ	秋の詩	
7月4日(土)～7月5日(日)		フジワン粒剤(成分1) (いもち病)			
7月11日(土)～7月12日(日)			フジワン粒剤(成分1) (いもち病)		
7月25日(土)～7月26日(日)		アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)		フジワン粒剤(成分1) (いもち病)	
8月1日(土)～8月2日(日)			アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)		フジワン粒剤(成分1) (いもち病)
8月8日(土)～8月9日(日)			アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)	アルバリン粒剤(成分1) (カメムシ・ウンカ)	

出穂期

落水期

収穫期

アカスジカスミカメ トゲシラホシカメムシ ホソハリカメムシ クモヘリカメムシ 斑点米被害写真

①共同一斉防除

- ・共同一斉防除は決められた日に行う。
- ・風向き及び周辺の状況に注意して散布する。
- ・マスク、手袋を使用する。

②いもち病

- ・茎数が多く過繁茂なほ場や、朝露などで露の落ちにくいほ場、前作で「いもち病」が発生したほ場では、特に発生に注意する。
- ・発生を認められた場合、ブラシン粉剤DL(成分数2)を収穫7日前までに散布。 環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。

③紋枯病

- ・最高分けつ期から出穂期頃に、下部の葉が枯れあがる。出穂期以降は上部も枯れあがる。キヌヒカリ、みずかがみなどに比較的発生が多い。
- ・昨年発生したほ場では、リンバー粒剤(成分数1)を収穫30日前までに散布。
- ・発生が認められた場合、バリダシン粉剤DL(成分数1)を収穫14日前までに散布する。 環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。

④カメムシ類

- ・カメムシ類の吸汁による斑点米は、下位等級格付けの原因になる。
- ・斑点米被害の多い地域は、一斉草刈を行うとともに、追加防除を実施する。

■一斉草刈 1回目 7月中旬 7月11日(土)～12日(日)ごろ 2回目 8月上旬 8月1日(土)～2日(日)ごろ

■ほ場内のヒエ抜きは、7月上旬までに終える。

■追加防除 MRジョーカー粉剤DL(成分数1)出穂10日～20日後に散布する(10aあたり3～4kg)。ただし、収穫7日前まで 環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。



いもち病の病斑 紋枯病の病斑

6. トレサビ・GAPの記帳

- ①共同一斉防除が終了すれば、一連の作業が終了しますので、トレサビの記入内容を確認し提出に備えましょう。なお、JAへの提出期限は8月14日になりますが、日本晴など防除が遅くなる場合は、見込みの実施日を記載いただきご提出下さい。
- ②GAP(生産工程管理)は、一年の作業を振り返り作業工程の留意事項を再確認し、次年度作業の改善を図りましょう。

7・環境こだわり農産物基準(水稻)

①土づくりの励行

②化学合成農薬成分数 7成分まで

③化学窒素肥料使用量 4kg/10aまで

その他、環境保全型農業直接支払交付金制度には、別途要件がありますので、ご注意願います。

■お問い合わせ■

湖東地区

本所 営農販売課(指導担当)

NTT 0749-45-1111(直通)

IP 0505-801-0551(代表)

愛東地区

愛東経済課(指導担当)

NTT 0749-46-0076

IP 0505-802-3576

※本所営農指導担当直通電話が開設されました。

JA湖東

JA湖東
で検索



<https://www.ja-koto.or.jp/>